

『アジア・ジェンダー文化学研究』 投稿規程

1. 『アジア・ジェンダー文化学研究』には、ジェンダー研究に寄与する学際的な論文（寄稿論文、投稿論文）、研究ノート、講演会記録、資料、書評などを掲載する。
2. 本誌に投稿することができるのは、以下の者とする。
 - (1) 本学教職員、院生、博士研究員、センター協力研究員
 - (2) センターで行ったシンポジウムなどに関与した者
 - (3) その他編集委員会が適当と認めた者
3. 原稿は未発表のものに限る。

原稿については査読を行い、本センターのセンター員で構成する編集委員会が採否を決定する。
4. 本誌に掲載された原稿を奈良女子大学学術情報リポジトリ等、ネットワークを通じて不特定多数に無料で公開することを、著者は了承するものとする。
5. 原稿の分量は次のとおりにする。
 - (1) 論文は、12,000字以上20,000字以内の分量とする。
 - (2) 研究ノート、資料、書評は、12,000字以内の分量とする。
 - (3) 外国語論文は、4800語以上、8,000語以内の分量とする。
 - (4) 論文、研究ノートには、英文タイトル、英文要旨(300語以内)、邦文要旨(600字以内)、キーワード(3～5個)を添付する。
 - (5) 見出し、小見出し、注、文献リスト、図表までを含めることとし、これらを合計した文字数が規定の分量内におさまるようにする。
6. 原稿はデジタルデータとし、A4の用紙に記載したワード原稿とPDF原稿の両方を提出する。原稿には、タイトル(英文タイトルも添える)、著者名、邦文要旨、欧文要旨(論文、研究ノート、の場合)、注、文献リスト、図、表の順に1つのファイルにしたものを、センターの編集委員会宛(a-gender.c@cc.nara-wu.ac.jp)にメールで送付する。注と文献リストを原稿の後ろに入れ、図および表の挿入部分を原稿上に明示すること。
7. 原稿の書式の基本的な原則は以下のとおりである。
 - (1) 原稿はA4判の用紙を使って、40字×36行で印字する。
 - (2) 余白は上35mm下30mm、左右30mmとする。
 - (3) フォントは明朝体、英数字はCenturyを使用し、サイズは10.5とする。
 - (4) 注は論文全体に通し番号をつけ、本文中には半角の数字と片括弧をつける。注は文献リストの前に入れる。

例……………である3)。
 - (5) 文献は本文中に()に入れて、著者の姓、半角スペース、刊行年、コロン、ページ数の順に記載する。

例……………である(坂井 1968: 12-15)。
8. 文献リストの記載は、著者名(アルファベット順)、刊行年、題名、出版社、ページ数の順に記載する。

(1) 雑誌論文

- ・Matsuoka, E.2017 The Gendered Body in Family Planning in Indonesia. Gender and Culture in Asia(1):19-35.
- ・鈴木則子 2017「近世後期産科医療の展開と女性～賀川流産科をめぐる～」『アジア・ジェンダー文化学研究』創刊号：5-16。

(2) 単行本

- ・柳田国男編 1935『日本民俗学』岩波書店
- ・Martin, E.1987 The Woman in the Body. Open University Press.

(3) インターネット情報を引用の場合

- ・<http://>.....(最終閲覧日2020年〇月〇日)

9. 図表、写真は、図1、表1のように順に番号をうち、それぞれの表題、出典などを記し、本文中に挿入箇所を指示すること。図表、写真を掲載する際には必ず著作権者の了解を得ること。

10. 投稿原稿の締め切りについては、毎年10月末日とし、発行は翌年の3月末日とする。

【附記】

投稿及びその他の通信は、〒630-8506 奈良市北魚屋東町 奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター『アジア・ジェンダー文化学研究』編集委員会宛 (E-mail: a-gender.c@cc.nara-wu.ac.jp) をお願いいたします。

〔2017年10月12日改正〕

編 集 後 記

『アジア・ジェンダー文化学研究』第9号をお届けします。

本号には、2024年12月に開催された国際シンポジウム「Covid-19の影響とジェンダーをめぐる問題」の成果である特集論文を3本、投稿論文2本、研究ノート1本、講演記録1本、書評2本を掲載することができました。ご論考をお寄せくださった皆様、ご多忙のなか査読の労をおとりいただいた方々、さらに研究会やシンポジウムの開催にあたってご尽力くださった皆様に、心より御礼申し上げます。

世界を一変させたCovid-19は「振り返り」の段階に入りつつありますが、今回の国際シンポジウムを通じて、ジェンダーの視点からこの問題を捉えたとき、多くの課題が十分に議論されないまま見過ごされてきたことが改めて浮き彫りになりました。そうしたなか、アメリカでは政権交代を機にトランスジェンダーへの抑圧が強まり、「多様性」を尊重する制度や政策が次々に撤回されています。こうした強権的な政治姿勢は、日本を含めた各国にも少なからぬ影響を及ぼしており、予断を許さない状況にあるといえます。本誌はジェンダーをめぐる世界の動向を注視しながら、今後も高い水準の議論を展開できる場を提供していく所存です。引き続き、皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

(林田敏子)

組織

● センター長

高岡尚子 (研究院・人文科学系)

● 運営委員

大平幸代 (研究院・人文科学系) ※

林田敏子 (研究院・生活環境科学系) ※

松岡由貴 (研究院・自然科学系)

水垣源太郎 (研究院・人文科学系)

山崎明子 (研究院・生活環境科学系)

● センター員

浅田晴久 (研究院・人文科学系)

市川千恵子 (研究院・人文科学系) ※

三部倫子 (研究院・人文科学系) ※

澤田佳世 (研究院・生活環境科学系)

鈴木則子 (研究院・生活環境科学系)

中川千帆 (研究院・人文科学系) ※

野村鮎子 (研究院・人文科学系)

町田奈緒士 (研究院・人文科学系)

吉田容子 (研究院・人文科学系)

● 協力研究員

阿部奈緒美

飯田愛紀

池田光穂

柿本佳美

志賀祐紀

曾 環恵

野口理恵

姫岡とし子

星乃治彦

松岡悦子

三成美保

● 事務担当

研究協力課

※『アジア・ジェンダー文化学研究』
No.9編集委員会